



母親を 霜よけにして 寝た子かな 小林一茶

寒くて母親にしがみついている赤子、寒くないように赤子を抱き包んでいる母親、そんな母子の姿が目浮かぶような俳句です。本当に温かみを感じられる素敵な句です。

徐々に寒さが厳しくなっています。冬將軍の足音が聞こえるようです。季節の変わり目、健康には十分気をつけましょう。



子どもに伝えたい言葉

「青少年育成センターだより第42号」で、「お天道様は見ている」という言葉を子ども時代によく聞いた話を紹介しました。これは、60歳を超えた今でも、心にしみている言葉で、これからの子どもたちにも伝えたい言葉だと思っています。

今回はもう一つ子どもたちに伝えていきたい言葉を紹介します。

それは、「てんもうかいがい天網恢々 そ疎にして も漏らさず」という言葉です。普段はあまり聞かない言葉でしょう。今回はこの言葉について考えてみましょう。

皆さんは、コンビニの前に置いてあるダストボックスがゴミ一杯になり、ゴミがはみ出している光景を見たことはありませんか？ダストボックスには「家庭ゴミを入れないでください」と書いてあるのですが、よく見てみると店から出たものではなく、家庭から出たゴミが混じっていることが多いように思います。

どうして、そのような注意書きがしてあるのに、家庭ゴミを捨てる人がいるのでしょうか？その人の心には「誰も見ていないから大丈夫だ」とか「見つかるはずがない」「みんなもしている」という気持ちが心の底にあるのだと思います。人間は、弱いものでそのような気持ちになりがちです。しかし、誰も見ていなかったら、何をしても良いのでしょうか？絶対にそんなことはあってはいけません。万引きはしてはいけないことです。また、最近よく聞く脱税や贈収賄、偽装などもしてはいけないことです。しかし、残念ながら見られていないということで、このような反社会的なことを平気でする人がいます。

「天網恢々疎にして漏らさず」の意味は、「天がはりめぐらした網は、広く、目は粗いが、漏らすことはない」。簡単に言えば「天は、人がしたことは良いことも悪いことも見逃すことはない」ということです。私たちの弱い心を諫めてくれる言葉です。

私は、「天」とか「お天道様」というのは、人の心の中にある「良心」のことではないかと思っています。この「天網恢々疎にして漏らさず」や「お天道様が見ている」という言葉は「誰も見ていなくても自分の良心が見ている」と言い換えることができるのだと思います。神様は、悪いことをしたときは見逃してくれません。また、逆に良いことをしたことも見てくれており、それに対して、後からご褒美をくれるのだと思います。

どうぞ、皆さんも「天網恢々疎にして漏らさず」と「お天道様が見ている」という言葉を覚えておいて、弱い心になったときに思い出してください。この言葉が、悪い手を止めてくれます。私たちは、誰が見てなくてもいつも良心に従い、正しい行動がとれる人間になりたいものです。そして、子どもたちにもこの言葉をしっかりと伝えていきたいものです。

誰もが気持ち良く、生きやすい社会にしていきたいと思います。